

令和5年度第7回沖縄県環境影響評価審査会議事概要
(答申案の審議)

日時：令和5年11月29日（水）13：30～16：30

場所：沖縄県自治研修所 8階 特別研修室（住所：那覇市西3-11-1）

出席委員：（会場）日高会長、棚原副会長

（Web）廣瀬委員、尾方委員、嵩原委員、佐々木委員、立原委員、
山川委員、安里委員

事務局：環境政策課環境影響評価班 小川副参事、宮平班長、上江洲主任技師、
崎枝主任技師、與那原主任

議題：産業廃棄物焼却溶融再資源化施設の整備事業に係る事後調査報告書について（答申案
の審議）

事務局より事業概要、答申案及び審査概要について説明の後、質疑応答を行った。

【質疑・応答】●委員 ○事務局

●ダイオキシン類の大气への排出ガスは、令和3年、4年度でだいぶ減ってよかったと思いますが、これは焼却時にダイオキシン類の産生が減ったのか、それともバグフィルターで回収する効率が良くなったということでしょうか。

○報告書では「維持管理の徹底」ということで、バグフィルター等の交換頻度や日々の維持管理を事業者の方で徹底することによって、ダイオキシン類が超過しないようにした結果だと聞いております。

●産生するダイオキシン量は変わらなくて回収が進んだとしたら、バグフィルターで回収したばいじんの処理はどうしているのでしょうか。

○飛灰、いわゆる「ばいじん」ですが、ばいじんも適正に回収して、ばいじんにダイオキシン類がどれだけ含まれていたら駄目だという廃棄物処理法、ダイオキシン類特措法上の基準がありますので、これを確認した上で、ばいじんについては県外で処理をしていると聞いております。

●これまで貯めていたもの（仮置き of 廃棄物）は焼却灰由来のもので、ばいじん由来のものはちゃんと処理されてきたと理解していいわけですね。

○そうです。燃え殻は燃え殻、ばいじんはばいじんとして、別で処理をしているということ

になっております。

●観測地域の最大の降雨量が 147mm となっていますが、これは日雨量ですか。範囲がちょっと分からないのですが。

○報告書の 5-27 ページの下の(4)降雨量ですけれども、こちらに今回の事後調査において連続的に観測された最大降雨量は令和 4 年 10 月 31 日から 11 月 2 日までの 3 日間で 147mm であったと記載されております。

●降雨量は、日降雨量か時間当たりで示すのが普通ではないでしょうか。ここの基準が 3 日だとか 4 日だとか勝手に基準を付けられてしまうと、降雨量と言った時の基準が分からなくなるので、1 日の最大降雨量か、時間当たりの最大降雨量で出すのが普通なのかなと思います。答申案の方にも、何も単位が入ってなかったのが少し変な感じがします。

例えば、3 日間に 147(mm) というと、単純に延ばしてしまうと (平均) 50 ずつですよ、一番降った時が。梅雨時期の降雨量を全然やってないのはかなり問題ですし、その単位をはっきりさせない降雨量というのはあまり意味がないのかなと思います。例えば、これ 2 にすることも、4 にすることも 5 にすることもできてしまうので、この辺は正確にした方がいいのかなという気がします。

○おっしゃるように、この最大降雨量、最大降雨時のピークの捉え方というのか、この事後調査報告書の中では明確でない部分がございます。あくまでこの事業実施対象区域の近くの観測所のデータ、宮城島というところに観測の気象データがありますが、連続降雨で最大のところをとっているんですけれども、今回の事後調査報告書では、これが今回 10 月 31 日から 11 月 2 日までの 3 日間で 147mm というのが一番多かったということを事業者は言っているんですけれども。

●逆に言うと、この 3 日間で 2,875 (m³) ってことですよ。単純に引き延ばしているということですか。全体に引き延ばしているということですか。

○この事業対象区域に降った降雨量と雨水貯留槽の総量を比較していますが、この事業対象区域の面積がまず 19,559m² です。ということと、連続した降雨量が最大で 147mm でした。それで単純に掛け算して、対象の事業実施区域内に降った総降雨量 2,875m³ の雨水がこの事業対象区域に入ってきたと。それと比較して雨水貯留槽(の容量)よりも少ないので、事業対象区域から外側に水は出ていってないというのが、報告書の内容になっております。

●実際の事業所がある場所と雨水計がある場所はどのくらい離れているのですか。

○宮城島というのがうるま市の東側ですけども、地図で確認したところ、直線距離で10キロぐらい離れています。

●本来は事業所の中に降った雨量を計るべきな気がします。

○そうですね。事業場に雨水計はないのだらうと思いますが、あくまで一番近いところで比較したという内容になっているかと思います。

●局所的に降るものなので、例えば10キロ離れた場所の降雨量がその降雨量を示しているとは限らないので、もうちょっと検討する余地があるのかなという気がします。

●関連してよろしいでしょうか。

まず地点に関しては、宮城島というと海中道路の向こう側ですよ。多分、沖縄市とかのアメダスの方がより実態に近いと思います。距離だけの問題ではなくて、宮城島の環境を考えると、それよりは沖縄市の胡屋とかその辺でもアメダス地点あったと思いますが、気象庁のサイトを見れば分かりますけど、もうちょっと条件の近いところがあるのではないかなというのが一つですね。

さっきの連続量に関しては、連続量の指標自体はあるのでそれ自体はいいのですが、より多面的にデータを示している中で連続量も出しているのか。そうであればいいと思います。それは他にもいろいろデータは出ていましたか。

○少し補足しますと、事業者は、この雨水貯留槽に水を貯めた後に、焼却焼成炉、焼却溶融炉の冷却水に利用しているというのがまず一つございます。ですので、ある程度貯まった水を使うということがございますので、確かに（雨水貯留槽が）満杯になることはあんまりないのだらうということは想定されます。

宮城島の気象観測データを確認しましたが、例えば5日連続して最高はどうだったというの調べてみましたが、連続降雨量というもので考えた時の最大は梅雨の時よりもこの期間で最大でした。もちろん1日100mm降って、翌日、前日は降ってないというようなデータもありますけれども、100mm降って貯まった水は、ある程度また冷却水に使ってということが多分あったかと思います。ですので、何日かずっと雨が降って貯まった水の量を考えるっていうのはいいとは思いますが、ですけども。

確かにおっしゃるように、もっと近くの沖縄市にある観測所の方のデータではどうだったかって言うのを確認したいと思います。

●アメダスの観測所が胡屋にもあることがウェブサイトを確認できましたので、そっちの

方が実態には合いそうな気がします。気象庁以外のうるま市や沖縄市の役所でも多分どこかで計っているのではないですかね。何で宮城島なのかというのは本当にちょっとよくわからないです。

○わかりました。もっと実態に合ったデータで分析、考察するよという事で、意見としても出したいと考えております。

●この雨水貯留槽に貯まっている水の一部は、冷却水としていつも使用しているということですね。雨水貯留槽はたくさんありますから、その水位とかレベルをモニターしながらポンプで揚水したりもしているとのことは現地調査の際に聞いたような気がします。ですから、もしモニターしていて、満杯になっていなければ全く問題ないので、それを示して頂ければ本当はいいのかなという気がします。

あと、この焼却灰、昔のやつを除いたところを緑化するために地面を整地していましたよね。あそこは向こう側が谷になっていて垣根みたいな。柵で仕切られているんですけども。今の状態だと、降雨があった時に落ちてっちゃうような気がするんですね。実際に崖の地点もまた、下の方にもう1個、雨水貯留槽があるから大丈夫だという説明を受けたんですけども。できれば緑化する場合に、そこから落ちないように盛り上がりをつけるような形でやってもらえると、より望ましいのではないかと思います。

●貯留槽は何ヶ所ぐらいありますか。

○事業実施区域内に4ヶ所設けています。

●1というのは、施設外にあるということですか。

○施設外ですが、当初の事業実施区域内という位置付けになっております。

●先ほどのコメントにもありましたが、水位は調査してないのでしょうか。

○モニターしていると聞いておりますが、デジタル表示で何 m³ 貯まっているというようなものではなく、貯留槽の水位が高くなったら Hi、低くなったら Low というように線が引かれていて、それを目視で確認していると。4つともそうであるかまでは確認していませんが、そのように確認しているというふうに事業者から聞いております。

●例えば Hi になったら警報が出るとか、そういうセンサーは？

○警報センサーではないというふうに聞いております。あくまで目視ということです。

●警報が出るようにすれば、雨量から計算する必要もないのではないかと思います。

●もう一ついいですか。5-75 ページですけども、5-8-3.2 の魚類の確認目録の表ですけど、そこに一覧があって、種名として「ソードテール」いうのが入っていますが、確か「グリーンソードテール」だったと思うので、正確にした方がいいのかなという気がします。

それと、「マダラロリカリア」というのがありますが、これは「disjunctivus (ディスジャンクティブス)」だったということでしょうか。これはもう沖縄では、ディスジャンクティブスじゃない種とかなり入れ替わりが起きているので、この種がディスジャンクティブスだったのかということだけ確認したいのですが。外来種ですので、大した問題ではないですけども。

○分かりました。今、手元の資料にございませんので、後で確認してご連絡します。

●最近では場所によっては、第2の種類と入れ替わっているところがあるようです。それも確認できるようにしておいてください。

○承知いたしました。

●前回の現地視察でちょっと気になったところが、やはりフレコンバッグに貯留されている廃棄物ですけれども、一部袋が破損して、施設内の側溝に流れ出ているような状況が確認できたと思います。このフレコンバッグの処理については、何年か前の視察の時にも早急に処分すると言って、そのままの状態がかなり長期にわたって続いていますので、少し向こう側の作業工程を明確にさせていただいて。そのチェックを細かく県の方でするとかですね。そういう処置をそろそろしないといけないのかなというふうに思っています。

それから、破損したフレコンバックから漏れ出た廃棄物に関しては、何らかの処置を我々もすべきかと思っておりますので。その辺もし可能であれば、答申案に踏み込んでいただければと思います。

○今回現地確認した際の緑化予定箇所を示します。確かに今まであまり対策がされてなくて、フレコンバッグの劣化により廃棄物がむき出しになっていたという状況もありましたが、現地確認した時はその対策というか、ブルーシートがかけられてということでありました。そして一部、処理の方も進んでおりました。

事業者の計画では、最終処分場を持っていますので、今後こちらを優先的に最終処分場の方で処理をして、令和6年6月頃には全数を処分完了して、緑化の方も始めていくという計

画をしております。

こちらについては廃棄物部局の方とも連携して、不適正に保管されている廃棄物については、処理を進めていくように指導を行っている状況です。

答申案に載せるかというところですが、今回答申案の1の(2)で、「処理計画が示されているところでありますが、可能な限り早期に処理させること」ということで、答申案で述べておりますが、この辺の表現をどうするかは、またご相談させていただきたいと思っております。

以上